

「第74回日本キリスト者医科連盟総会への招き」

第74回 JCMA 総会会長・猪狩 友行

2023年が明けました。今更ですがコロナ第8波が収束に向かう今、改めて年が明け希望が見えてきたような気持ちです。

主題聖句をイザヤ書60章から選びました。「起きよ、光を放て」
新しい時代、コロナを超えて、いやコロナと共にかもしれませんが、この時代に一人のキリスト者として心身ともに輝き、受けている光・希望を周囲に反射したいのです。

総会の学びとして人生会議、ACPをテーマとしました。

これもまた御心から出たことだと思えるのです。今や私たちはどう気張ってみても大半が高齢で、ケア提供の医療現場からはリタイヤしています。ですから、ケア対象者のそれというよりむしろ主題は私自身のACPになると思います。まず、私自身が忍び寄る老化と死を意識して、今のうちに前もってみずからの地上最後のプランを考えておいて、それを分かち合ひましょう。

主題講演の沖永隆子氏、すでに関東部会の勉強会から一緒に歩んでおられます。そのような講演者に会ったことがありません。ACPは結論ではなく、プロセスに鍵があるようです。その意味からも、総会の3日間、一緒に歩みましょう。

一方で私たちキリスト者は、実にかたじけなくも、主の十字架のゆえに救われて神の子となり、神の国を受け継ぐ者としての約束を与えられています。ですから、この総会の会長としての願いは、お一人一人の地上の最後、ACPにとどまらず、死後の希望を聖書から再確認して、分かち合うことをしたいのです。そのために、山中正雄牧師をお呼びして3回のメッセージをいただき、また武知由佳子姉妹に信仰の証しをお願いしました。どうぞ、前もってこの名前で検索願います。

「響きあい」実はJCMAメンバーの精神科医、故平山正実先生の話からこの言葉に惹かれています。私たちは心の響きあう兄弟姉妹です。このコロナで3年間というもの、真の交わり、響きあいが妨げられてきました。今年の総会こそ、響きあいのJCMAを再興しましょう。

会場のホテルカデンツアがある練馬区光が丘は都内では得難いような素晴らしい自然環境の中にあります。ホテルの敷地も周囲の公園も散策や祈り思索にふさわしい環境です。それもそのはず、私の子供の頃の記憶ではグラントハイツという米軍の職員住宅でした。ぜひこの環境の中で心身の休養も取っていただきたいです。

しかし、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、私たちは待ち望んでいます。ピリピ3:20
これらのことを証しする方が言われる。「しかり、私はすぐに来る。」アーメン、主イエスよ、来てください（マラナタ）。黙示録22:20（いずれも新改訳2017）